

福島県・復興へ向けた取り組み進む福島市

～停滞気運を払しょくへ

日本不動産研究所 福島支所
不動産鑑定士 石川 勝利

地震・津波・原発事故と過去に類をみない多重災害をもたらした東日本大震災から3年を経過した本年3月11日、東日本大震災の犠牲者の冥福と震災からの復興を祈念して、福島市で「東日本大震災追悼復興祈念式」が行われた。

福島県では、いまなお多くの方々が県内外への避難を余儀なくされ、仮設住宅などでの不便な生活を強いられている。その一方で、県民の懸命な努力と全国からの応援のもと、県内全域で除染作業が進められるなど復興に向けた取り組みが進められている。

こうした努力を背景に、平成26年地価公示での福島県内の平均変動率は、住宅地+1.2%（前年-1.6%）、商業地-0.5%（前年-3.2%）、工業地***+0.9%（前年-1.5%）と、住宅地と工業地で地価は上昇に転じ、商業地の下落率は大幅に縮小した。

津波被災地から60km以上離れた福島県中通り地方でも、東京電力福島第1原子力発電所事故（以下、原発事故という）による影響とその後の風評被害の影響は、長期にわたって市民生活に暗い影を落としていた。こうした停滞した社会・経済的気運を市民の努力によって払しょくしようと復興に向け懸命に取り組んでいる街として、今回、弊所福島支所の所在する福島市に焦点を当てた。

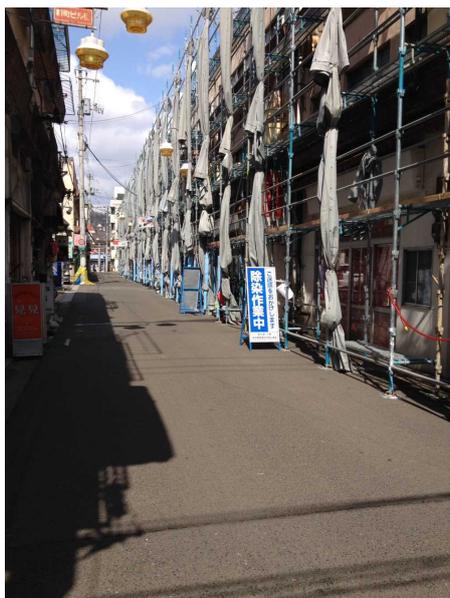
福島市は、福島県北東部で東京から北方約270kmに位置する。西の奥羽山脈・東の阿武隈高地の間に形成される福島盆地と、周辺の山岳・丘陵地域を含んで市域面積***767.74km²を誇っている。明治40年4月に市制が施行されて以来、県都として政治・経済・文化等の中心市として発展し、現在では福島県を代表する都市としての地位を占めている。



「福島駅周辺」

除染作業が進む福島市内

原発事故後、福島市内の環境放射能測定値は大きく上昇し、平成23年3月16日に福島市役所での環境放射能測定値は24.24 $\mu\text{Sv/h}$ を記録した。こうした放射能汚染の状況を背景に、福島市内では公共施設や放射線量の高い地区から順次除染が進められ、平成26年2月1日現在の除染進捗率は、住宅30.0%、道路90.8%、森林（生活圏）*43.5%、農地（田・畑）100%まで進み、平成26年3月19日時点の福島市役所東棟付近の環境放射能測定値は0.36 $\mu\text{Sv/h}$ まで軽減されている。そして、今日もまた多くの福島市民や全国の人々の尽力のもと、福島市内の各所で除染作業が行われている。



「福島市中心部で行われている住宅除染作業の様子」

福島市中心部で進む大型病院の建設

東日本大震災及び原発事故による多くの苦難を受けている福島市であるが、こうした苦難を経験した福島市だからこそできる医療等の最先端研究が推進されている。福島市中心部の上町地区では、既存総合病院の新築移転整備が進められており、地域振興への貢献も含めた相乗効果が期待されている。



「既存施設の解体が進む「総合病院建設予定地の一部」の現況」

総合病院の概要

事業期間：平成24年4月～平成29年3月

敷地面積：約10,000㎡

階数：地下1階地上8階建

延床面積：約28,000㎡

建築面積：約6,340㎡